

言語と美術——平出隆と美術家たち



図版1. 平出隆《private print postcard 011-z》1975年 個人蔵 Photo: Kenji Takahashi

国際的ベストセラー小説『猫の客』で知られる詩人、平出隆（1950-）。本展は、平出が「対話」を重ねてきた第一級の美術家たちとの長い歳月を軸に、美術作品に固有の思考や言語に光を当てるものです。独自の概念「空中の本」を踏まえた会場構成は建築家・青木淳が担当。全長約12mの「透明梁」を用い、詩人と美術家たちが、あるいは言葉と形象が重力から解放されて交差する空間を現出させます。

会 期	2018年10月6日(土) - 2019年1月14日(月・祝)
開館時間	9:30-17:00 (入館は16:30まで)
休 館 日	月曜(10/8、12/24、1/14は開館)、10/9(火)、年末年始12/25(火) - 1/1(火)
入 館 料	一般1,300円、学生・65歳以上1,100円、小中高600円
会 場	DIC川村記念美術館(千葉県佐倉市坂戸631)
電 話	掲載用=050-5541-8600(ハローダイヤル) 取材用=043-498-2672(事務所直通)
主 催	DIC株式会社
協 力	多摩美術大学、横田茂ギャラリー
後 援	千葉県、千葉県教育委員会、佐倉市、佐倉市教育委員会

展覧会概要

平出隆（1950- 詩人、多摩美術大学教授）は、数々の詩集を世に問うとともに、各国語に翻訳され国際的なベストセラーとなった小説『猫の客』で広く知られています。また、2015年DIC川村記念美術館での講演「コーネルとその数式」は、当館所蔵のコーネル作品に対する独自の解釈として好評を博しました。

近年は執筆にとどまらず、本そのもののあり方を探究しながら、封筒入りで手紙のように読者に直接届けられる《via wwalnuts 叢書》、自身の著作にまつわる写真を使ってデザインし印刷するポストカードのプロジェクト《private print postcard》といった最小限の形態による出版物を手がけています。これらはいずれも国内外の重要な美術家たちとの深い対話から生み出されたアイディアの実践といえます。

本展は平出による観点から、「言語」と「美術」が鋭く交差するところに生まれる「対話」の多様な形態に注目し、DIC川村記念美術館の収集作家を含む美術家たちについて、作品に関わる言葉や出版物などとともに新たな光を当てることを目指すものです。出品作品はジョゼフ・コーネル、ドナルド・エヴァンス、加納光於、河原温、中西夏之、奈良原一高、岡崎和郎、瀧口修造、若林奮ほか。同時にコレクション展示室において関連作品もご覧いただけます。

言葉が造形性を伴いながら拡散してゆく平出独自の概念「空中の本」を踏まえた会場構成は、建築家の青木淳が担当。全長約12mのアクリルと鉄で作られた「透明梁」を用い、詩人と美術家たちが、あるいは言葉と形象が重力から解き放たれて交差する空間を現出させます。



図版 2. ドナルド・エヴァンス
《Domino, 1934. Domino》1974年 個人蔵
©The Estate of Donald Charles Evans
Photo: Kenji Takahashi



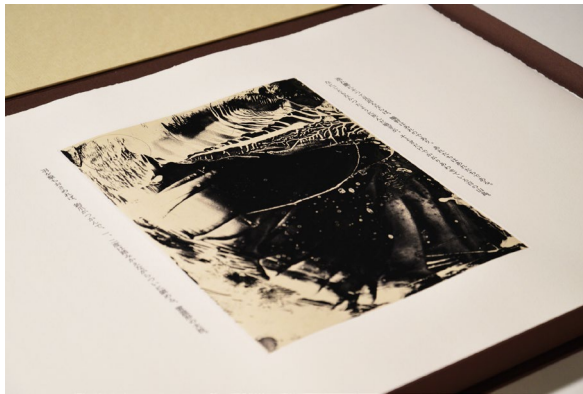
図版 3. ジョゼフ・コーネル《鳥たちの天空航法》1961年頃
DIC川村記念美術館
©The Joseph and Robert Cornell Foundation /
VAGA at ARS, NY / JASPAR, Tokyo C2339

平出隆のメッセージ

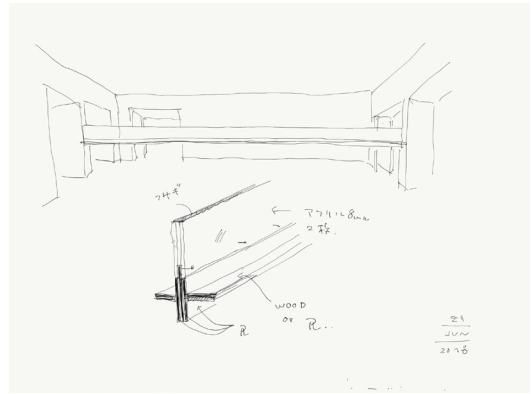


Photo: Takashi Mochizuki

よく「美術家は言語を使わずに制作する」と言われますが、それは少し単純にすぎる見方ではないでしょうか。卓越した美術家たちは、彼らの選びとる物質や観念の内部から、人類がまだ使わなかった言語を精妙に聴き出してくるからです。しかも、彼らひとりひとりから、それぞれに異なる無二の言語が発せられる。そのような言語を聴き取りたい。そのような言語は、私たちの思考よりさらに先を行き、私たちを豊饒な美と知の世界へと導いてくれるものですから。建築家の青木淳さんが、世界初という「透明梁」を設計して、この言語を展覧会会場の「空中」につかまえて見せてくれます。



図版 4. 加納光於+平出隆
詩画集《雷滴 その研究》2007年 個人蔵 Photo: KARIN



青木淳 《透明梁アイディアスケッチ》2018年
※展覧会開幕後に会場写真を撮影予定

ひらいで たかし

1950年、福岡県生まれ。一橋大学卒。詩人・作家・批評家。その詩は散文との重層領分に及び、『胡桃の戦意のために』（芸術選奨文部大臣新人賞）、『左手日記例言』（読売文学賞）、『猫の客』（木山捷平文学賞）、『ベルリンの瞬間』（紀行文学大賞）、『伊良子清白』（芸術選奨文部科学大臣賞 自装で造本装幀コンクール経済産業大臣賞）など多彩。『伊良子清白全集』編纂をふくむ清白関連全業績で藤村記念歴程賞。ドナルド・エヴァンス、河原温、加納光於とのあいだに成る美術関連書のほか、『via wwalnuts 叢書』や『crystal cage 叢書』など、造本や装幀の実験的な仕事もある。大江健三郎により「詩の中から新しい散文を生み出す詩人」とされる。98年度ベルリン自由大学客員教授。多摩美術大学図書館長、教授、芸術人類学研究所所員。尚、本展のベースといえる言語や書物についての著作『遊歩のグラフィズム』（岩波書店）『私のティーアガルテン行』（紀伊國屋書店）がある。

<http://takashihiraide.com/>

関連イベント

各氏のプロフィール、ご予約方法などの詳細は当館ホームページに掲載いたします。

■トークイベント①

平出隆 × 青木淳（建築家）

10月13日（土）13:30-15:00

要予約 9/21（金）受付開始 | 定員 50名 | 入館料のみ

■トークイベント②

平出隆 × 郡淳一郎（オルタナ編集者） × 澤直哉（ロシア文学者）

1月13日（日）13:30-15:00

要予約 11/30（金）受付開始 | 定員 50名 | 入館料のみ

■担当学芸員によるギャラリートーク

10月27日（土）、11月17日（土）14:00-15:00

予約不要 | 14:00 エントランスホール集合 | 入館料のみ

■ガイドスタッフによる定時ツアー

上記トークイベントとギャラリートークの開催日を除く毎日 14:00-15:00

予約不要 | 14:00 エントランスホール集合 | 入館料のみ

■詩の音読とギター演奏

平出隆 × 伊藤ゴロー（作曲家、ギタリスト）

11月24日（土）閉館後

要予約 10/26（金）受付開始

※詳細は 10月中旬に美術館ホームページで発表予定



Photo: Takashi Homma

図版掲載をご希望の方へ

- * 掲載図版が1点のみの場合は**図版2**（ دونالد・エヴァンズの切手作品）をお送りします。
- * 作家名・タイトル・制作年・所蔵者名および著作権クレジットは必ず明記してください。
- * 掲載情報の事実確認をさせていただくため、発行前にPDFでレイアウトをお送りください。
- * 紙媒体は掲載物送付（掲載ページのPDF可）、ウェブ媒体は公開用掲載ページのURL通知をお願いします。
- * このページを出力しファックスしていただくか、Eメールで下記の情報をお知らせください。

お名前 _____ ご所属 _____

電話番号 _____ Eメール _____

媒体名 _____

掲載号 _____ 発行予定日 _____

コーナータイトル _____

執筆者名（記名原稿の場合） _____

図版 No. _____

図版送付×切日（対応できない場合もあります） _____

お問い合わせ・追加資料リクエスト先

DIC 川村記念美術館

TEL 043-498-2672（取材用）※記事掲載用は 050-5541-8600（ハローダイヤル）

FAX 043-498-2139

広報担当：海谷紀衣 press@kawamura-museum.com

学芸担当：赤松祐樹